52th
クラブ週報城東版
国際ロータリー第2580地区

Rotary
東京城東ロータリークラブ

2017. 10. 23　第2401回例会

「ロータリーの可能性を追求しよう」
東京城東ロータリークラブ会長　阿部　豊

例会日　毎週月曜日　12:30 ～ 13:30
例会場　〒 130-0013　墨田区錦糸1-2-2　TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局　〒 130-0013　墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605　FAX 5637-4611
事務局　天尾　文（伊藤）
E-mail　jyoto@club.email.ne.jp

会　長	阿 部　豊	副会長	若井　一郎
幹　事	江波戸　健 治	副幹事	重田　敦史
		会報委員長	宮﨑　浩一

R I 会長
イアン H.S. ライズリー
第2580地区ガバナー
吉 田 雅 俊
第2580地区幹事
本 多 良 美
ガバナー補佐：山本和夫
(東分区担当)
東分区幹事　：中山直幹
東分区副幹事：山本昌之

ロータリー：変化をもたらす

本日の卓話
「 米山奨学事業のあれこれ 」
地区米山奨学副委員長
小森谷 典明 氏

2017/10/16(月)
「　私の５０年　」
東武ホテルマネジメント
取締役 統括総料理長
中 村 善 二 氏

ニコニコボックス
○中村様、卓話よろしくお願いします。
阿部　豊君・若井一郎君・重田敦史君
池永憲明君・渡辺孝至君・篠田秀樹君
江波戸健治君・山﨑富士夫君・齊藤榮一君
○ケーブルテレビで放映されたキャンペーンの DVD が届きました。
佐野一信君
○皆さんの俳句を拝見致しました。
鈴木良戈君

小計￥35,000.-　累計￥892,000.-

※次週 10/30(月) は、「特別休会（東分区 IM）」の為、例会はございません。
(東分区 IM：13 時半 登録開始、14 時 点鐘)

2017年10月16日 例会報告

点　鐘	
ロータリーソング	『我等の生業』
ゲストスピーカー	1名
ゲスト及びビジター	0名
会員出席状況	48名中35名(出席率72.92%)
前々回訂正出席率	100%

- 来月11月の受付当番 -
兒玉君/重田君/篠田(秀)君/篠田(泰)君/杉田君

次回の卓話 (11/6)
「 ロータリー財団月間にちなんで 」
第2580地区Ｒ財団委員長・パストガバナー
水　野　正　人　氏

内容充実の為に、皆様からの投稿をお待ちしております！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

ＲＩニュース：2017.10.9

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

携帯電話がポリオ撲滅活動を変える

携帯電話で簡単にできるテキストメッセージはポリオ撲滅活動を成功させるカギとなるかもしれません。かつて世界中に広がっていたポリオの発症は、現在３カ国の一部地域に限られています。今後は、保健従事者が迅速にワクチンを提供し、情報を共有していくことが重要となります。

ロータリーが主要パートナーとなっている世界ポリオ撲滅推進活動では、連絡を強化するため、パキスタンとナイジェリアの保健従事者に携帯電話が支給されています。そこでは、1つのテキストメッセージが人の命を救うこともあります。パキスタンでは、予防接種データを含む母子健康報告書を、従来の紙から携帯電話と電子モニタリングに移行できるよう、地元のロータリー会員が尽力しています。

ロータリーの協力により、パキスタン政府、通信事業のTelenor社、データ管理のEycon社が、パキスタンの保健従事者に携帯電話800台以上を支給しました。今後、2018年までに 合計5千台を支給する予定です。保健従事者はテキストメッセージを中央サーバーに送信でき、ポリオ発症の疑いがある場合は、即座にパキスタン国立緊急センターに連絡できます。また、予防接種を受けていない子ども、拒否する保護者の有無、予防接種の実施範囲も報告します。同国では、5歳未満の児童35万人にポリオ予防接種を行うことを目指しています。

世界保健機関（WHO）の危機管理責任者、ミシェル・シーレン氏は、携帯電話の支給により、リアルタイムで情報を入手し、簡単にモニタリングできると話します。「携帯電話のおかげでポリオ撲滅活動は大きな進展を遂げています。綿密なデータをリアルタイムで記録し、すぐに共有できるので、正確さと有効性を高めることができます。これにより、政府やポリオ撲滅活動のリーダーたちも、必要な意思決定を戦略的に行えます」

ポリオを超えて

保健従事者は、携帯電話を使用して母子の健康に関するデータも管理しています。
ユニセフによると、パキスタンの児童死亡率は世界でも非常に高く、出生数1000件あたりの5才未満の児童死亡数は81件です。しかし、携帯やインターネットなどのテクノロジーでこの数を減らせると、パキスタン・ポリオプラス委員会のロータリー会員、アッシャー・アリ氏は話します。

これにより、マラリア、結核、インフルエンザのような感染病や、子どもの栄養不良や母体の健康状態もモニターできます。「乳児や母親に問題がある場合は、保健センターに情報をすぐに送信することで、迅速な対応が可能になる」とアリ氏。保健従事者がテキストメッセージで次の訪問日を予告できる、という面でも役立っています。

携帯電話の拡散

携帯電話の数は急上昇しており、世界で約70億人がもち、そのうち89％は発展途上国で使用されています（WHO調べ）。また、1日の生活費が1ドル未満の人でも、電話やテキストメッセージができるようにもなっているそうです。発展途上国において、携帯電話はどのテクノロジーよりも多く使用されています。ロータリーやその他の非営利団体でも、健康への取り組みを向上させるため、携帯電話を活用しています。

2016年、2年ぶりにナイジェリアでポリオ症例が出た直後、ロータリーとWHO職員は、現地のボルノ州北部で、従来の紙の報告方法に代わる携帯電話システムの報告方法を導入しました。この取り組みは、11以上の州に拡大しています。

ナイジェリア・ポリオプラス委員会のボニフェイス・イゴムさんは、次のように話します。「従来の紙の報告書では不正確な情報が含まれる場合があり、深刻な状況を見落とす危険性もありました。しかし、携帯電話のお陰で、迅速に問題を把握し、対応できるようになりました」

ナイジェリアでは、今年はまだポリオの発症が確認されていません。また、ナイジェリアでは、予防接種が行われていない地域を特定するために、携帯電話で利用できる地図機能を活用しています。保健従事者は、遠隔地から来た子どもの便をサンプルとして試験し、急性弛緩性の麻痺についてレポートを記録します。イゴムさんによると、この取り組みはボルノ州で始まり、現在３つの州に拡大しているそうです。

ナイジェリアでは、今年に入って千人以上が髄膜炎で死亡しているのですが、その後、国の緊急予防接種の取り組みで、同じデジタルツールが使用されるようになりました。